

Vol. 55
2023 SUMMER

ISSUE

[繋ぐ]

広げる

Special Issue:

「芯紙」の美しさを追究した 再生するリサイクルアート

先どる

積層による曲線が美しい
サステナブルなダンボール家具

拓く

当社グループの株式会社BMエコモが
グリーンエネルギー開発事業に参画

「芯紙」の美しさを追究した 再生するリサイクルアート

使い終わったら捨ててしまうだけのトイレットペーパーの「芯紙」。山田ゆかさんは、この誰もが気にも留めることなく廃棄してしまう「芯紙」に、エシカルな感性とていねいな手技を施すことでアート作品を生み出すアーティストです。無駄な装飾はせず、芯紙そのものの形状を生かした立体的な造形と光が創り出す美しい陰影が融合する山田さんの作品は、見る人々の心を惹きつけています。単に不用品をアートに変える「廃材アート」とは一線を画し、独自の価値観を作品を通して表現する山田さんの思いを伺うために、静岡県掛川市にあるアトリエを訪ねました。

広げる P01

「芯紙」の美しさを追究した
再生するリサイクルアート

先どる P06

積層による曲線が美しい
サステナブルなダンボール家具

拓く P09

当社グループの株式会社BMエコモが
グリーンエネルギー開発事業に参画

伝える P11

放送業界の牽引者から届いた
スマートで才筆を感じさせる礼状

OJO+ Column P13

OJO+コラボイベント
「書家 金澤翔子展」をレポート

深める P14

KPPグループの最新ニュースを
キャッチアップ

訪ねる P15

新たなコミュニケーションを生み出す
注目のブックカフェにフォーカス

作る 付録

ワールドカップ2023 フランス大会開催記念
「ラグビーボール型ミニボックス」

「感動」と「共感」を
共有するなかで
芯紙だから表現できる
アートとしての価値を
高めていきたい。

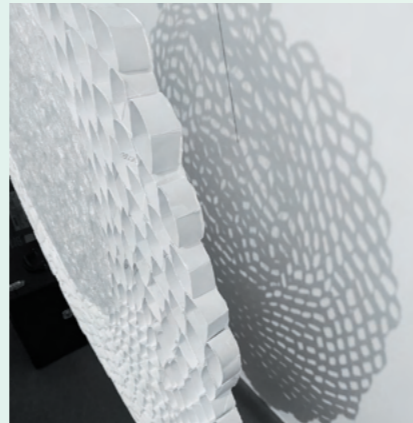
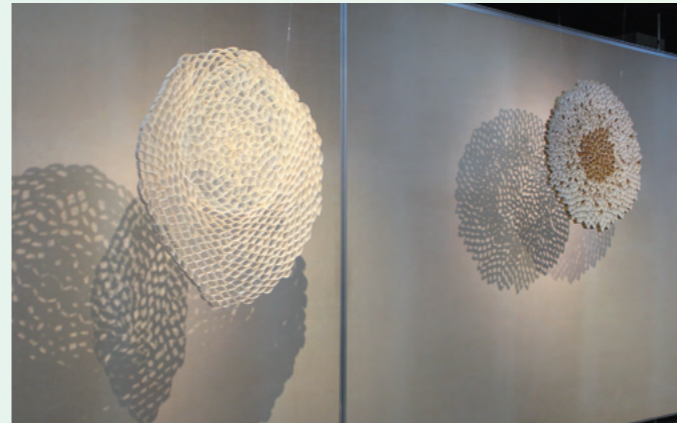
東京都出身。グラフィックデザイン、ウェブサイトを手掛けるデザイナーとしての活動と並行して、2009年に静岡県掛川市に移住したことを機に、トイレトペーパーの芯紙を使った創作活動を開始。2014年にマレーシアのペナン島で開催されたジョージタウンフェスティバルにて制作展示。以後、新宿コニカミノルタプラザ特別企画展「廻ルモノコト展」(2016年)、「かけがわ茶エンナーレ」(2017年)などで、個展や展示会を開催。2015年、アトリエの2Fにオリジナルブレンドティーが楽しめるカフェ「MUG TEA」をオープン。

<https://yamadauca.com/>
<https://mugtea.com/cafe-mugtea/> (MUG TEA)



トイレトペーパー芯
リサイクルアーティスト
山田 ゆかさん

自然光が差し込む山田さんのアトリエ(写真左)と、山田さんのアート活動に賛同する方々から提供されたトイレトペーパー芯紙の一部(写真右)



毎日の生活に欠かせない日用品のひとつであるトイレトペーパー。日本では長尺紙を巻き取った円筒型タイプが一般的で、日本家庭紙工業会の資料によると4人家族の場合で1か月に16ロール程度を消費しているそうです。そんなトイレトペーパーのボール紙でできた芯紙を使ってアート作品を創るのが、山田ゆかさんです。トイレトペーパーの芯紙は、保育現場での工作やペーパークラフトの材料に用いられることもありますが、山田さんの創るアート作品は次元が異なります。たくさんさんの芯紙をつなぎ合わせた幾何学的な模様はシンプルがゆえに奥深く、光を当てると見る角度によって陰影が変化する美しい作品が展示会を訪れる人々を魅了しています。

「トイレトペーパーの芯紙って、実は奥深いんです」。そんな第一声に思わず口ごもる取材班に対して山田さんは言葉を続けます。「日本製の芯紙はJIS規格(日本産業規格)でその内径や長さを定めているので、サイズはほぼ同じです。でも、製品によって紙質や厚みも違うし、スパイラル状にすることで強度を出すなど機能的にも優れている。芯紙に消臭や芳香成分が塗布されたものなどもあり、さまざまな工夫が詰まっている日本が誇るべき文化だと思います」。

山田さんは作品を創作するにあたって、いくつかの制約を設けています。

- ① 色を塗らない：芯紙の質感や色、印字などをそのまま使って表現する。
- ② ルールに沿って断裁する：そのままの形状で使用することを基本として、裁断する場合には再利用できるように、自ら決めたサイズで断裁する。
- ③ コミを出さない：創作の過程で極力ゴミを出さない。

芯紙をつなぎあわせるコネクターには、リサイクルすることを前提としてゼムクリップを使用。そのほか、自然環境への配慮として天然素材を原料とする粘着テープを使用するなど、明確なコンセプトに沿って創作しているそうです。「思いつくままに切ったり貼ったりして作品を創っても、その先に何も生まれません。何でも安価で手に入るモノが溢れかえっている時代だからこそ、資源を浪費するのではなく再生することにこだわりたいんです」(山田さん)。

デザイナーとして活躍していた山田さんがトイレトペーパーの芯紙に着目することになったきっかけは、友人からアート作品の出版依頼を受けたことだったそうです。「素材を探しているときに、身近にあったトイレトペーパーの芯はどうかと思いつきました。それから作品の参考になるものはないかとインターネットで検索したんですけど、トイレトペーパーの芯を使ったりリサイクルアートに関する情報は何も出てこなかったんです。誰もやったことのないことに可能性を見出して、

軽やかで豊かな暮らしを演出する 意匠性にこだわった「紙の家具」



自分で実際に取り組んだうえで答えを出すこと、身近にあるものを使って誰も思いつかない新しい価値を生み出すことにしてもワクワクしたんです」と当時を振り返ります。そこで山田さんが展示した作品は好評を博し、その場で次の個展開催が決定。前例のないアートとして多くのメディアに取り上げられ、またたく間に山田さんの創り出すアートが多くの方に知られることとなりました。「トイレトペーパーの芯を知らない人はいませんよね？誰もが知っているものだからこそ、アートにするのが難しいんです。誰もやりたいと思わないし、やる価値がないと思われていることだからこそ価値があるんじゃないかと。与えられたものに満足するのではなく、みんなが気付いていない価値に気付き、試行錯誤しながらカタチにする。与えられるがままに生活するのではなく、自分が必要だと思うことを選ぶことに意味があると思うんです」と山田さんは話します。



場で作品のパーツと一緒に創ることもアートワークなんです。この活動に参加した方々がそれぞれの感性で得た意識を共有し、継続的に取り入れることが最も重要だと思っています。私がアートを続ける理由は、心を集めてくれる人がいるから。アートを通じて誰かのために生きることが私の原動力だし、共感してくれる人が一人でもいるのなら、その人と共有できるアートを進化させていきたいと思っています。」山田さんにとって、アートは価値観を共有するためのツールであり、自らの価値観を形成する重要なファクターでもあるのです。

最後に今後の抱負について訊ねてみました。「ひとつは、私が活動している(静岡県)掛川市はアートが盛んな土地なので、地元美術館や企業とのコラボレーションによって、地域の方々が気軽にアートに触れることのできる機会を創出すること。また、コロナ禍が長引いたことでここ数年、展示する機会が減ってしまったので、近いうちにアトリエギャラリーを解放して実際に作品を観ていただければと思っています(解放日は未定)」。山田さんは、アトリエの2階に、オリジナルのブレンドティーを販売・提供するカフェ、MUGTEA(マグティー)を運営されています。カフェにも素敵な作品が常設されていますので、ホームページ、SNSにてご確認のうえ、訪れてみてください。



Magic Box



Figures



FIT



The Stool



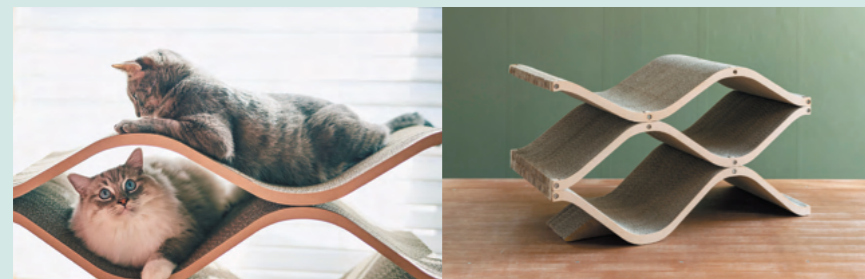
One World



The Low Table

猫のためのデザイナーズ家具「Cat Cellar」

“猫と暮らすインテリア”をテーマにカミカグが立ち上げたブランド「furnya(ファーニャ)」の第一弾としてリリースした製品。獣医師・建築家と共同開発したこの「Cat Cellar」は、猫のからだにフィットする居心地の良い形状はもちろんのこと、爪研ぎやひなたぼっこも楽しめるインテリア家具として愛猫家の話題を呼んでいます。



東京都墨田区立花5-9-5
テクネットすみだビル202-2
<https://kamikagu.myshopify.com/>

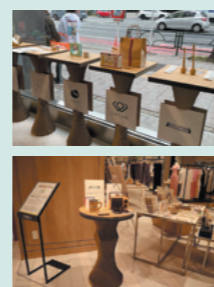
コンセプトムービーはこちら

<https://www.youtube.com/watch?v=iXBatMqgXDo>



サステナブル関連イベントの展示用什器にも

環境負荷の低いダンボール家具を、サステナブル関連の展示会やイベント、ポップアップストアで使用する什器として導入する企業が増加中。軽量のため什器の搬入搬出時の負担が少なく、カミカグのデザイン性の高い家具は、環境配慮の姿勢を効果的にアピールするディスプレイとして利用されています。オーダーメイドの完全受注生産となりますので、興味のある方はお気軽にご相談ください。



積層による曲線が美しい サステナブルなダンボール家具

高級なデザイナーズを思わせるシンプルで美しいフォルム。これらはすべてダンボールでできた紙製のインテリア家具です。この「カミカグ」の特長は、一般的なダンボールシートをデジタル加工機で切り取り、形状がわずかに異なるダンボールを積層して曲線までも表現する独自の造形技術にあります。各メディアも注目する「カミカグ」。和田社長のインタビューを通して、その魅力に迫ります。

——他社のダンボール家具とは何が違いますか？

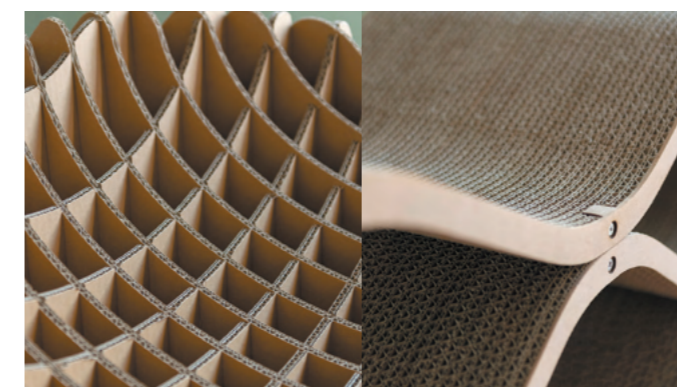
「カミカグ」のプロダクトに共通するのは、ダンボールシートを積層して造形していること。3Dプリンターのように立体的に成形できるので、曲線的な形状など自由なデザインを実現しています。また、ダンボール家具と言われる製品の多くは強化ダンボールを用いることで強度を出していますが、「カミカグ」は一般ダンボールを積層し接着することで耐久性と安定性を生み出しています。

——「カミカグ」の製品ラインナップを教えてください。

スツール(背もたれのない椅子)を中心に、各ユニットをマジックテープでつないで子ども用デスクやラックにカスタマイズできるデザイン家具、ダンボールでつくるクラフトキットなどがあります。最近では、企業の展示会やイベントなどで使用する什器としても多くご活用いただいています。カミカグの製品は基本的に受注生産ですので、用途に応じた仕様ものをオーダーメイドでご提供しています。

——大まかな製造工程を教えてください。

CADソフトで作成した3次元設計データを基に、ダンボールシートをデジタル加工機を使ってカッティングし、それを1枚ずつ接着しながら何層にも積み重ねて造形していきます。



緻密に設計された曲線的なデザインは、ダンボール製なのに高級家具のような印象をもたらす。

——「カミカグ」を開発するきっかけを教えてください。

大学時代、起業に向けた事業プランを考える授業があって、僕は建築を専攻していたのでモノづくりをしよう。一人暮らしの部屋で題材を考えているときに、自分好みのデザインでサイズもぴったり合う家具はつくれないかと思ったのがきっかけです。安価なダンボールを使ってオーダーメイドでつくる家具なら、需要があるんじゃないか。それに建築の地形模型をつくる際に、材料となるボードを積み重ねてつくっていたことも発想の根底にあったと思います。

——そこから起業するまでの経緯は？

しばらくは学生ベンチャーのような組織で有志学生を集めて製品開発を進めていました。そんななか、起業を支援・促進する東京都が主催する青山スタートアップアクセラレーションプログラムに採択されたこともあって、会社を立ち上げることにしました。

——紙製の家具ならではのメリットは何ですか？

ひとつは軽量であること。それでいて十分な強度がありますので、どなたでも安心してご利用いただけます。そのほか処分する際にもリサイクルができるので、環境負荷の小さいサステナブルな製品だと言えると思います。

——今後、どのようなプロダクトを予定していますか？

今年4月、猫と飼い主のためのインテリアブランドを立ち上げ、獣医師監修のもと、爪研ぎができる猫用家具の製造販売を開始しました。これからもニーズが顕在化しているターゲットに向けたプロダクトの開発・拡充を図っていきたくと思っています。また、サステナブルな視点を持つ多くの企業さまに注目していただいていますので、環境に対する姿勢を示す展示会やイベントなどで使用する什器などのご要望にもお応えしていく予定です。私たちの「カミカグ」のプロダクトを通して、幅広い用途や利用シーンを提案していくことで、木製や金属製にはない紙製家具ならではの付加価値を提供していきたいと思っています。

かぶしがいしゃ かみかぐ
和田 亮佑代表取締役社長
が東京大学大学院在学中
にダンボール製家具の企画・
設計・製造をスタートし、
2021年12月に法人化。青
山スタートアップアクセラ
レーションプログラム採択・最
優秀賞、GOBピッチコンテ
スト最優秀賞・審査員特別賞
など受賞多数。

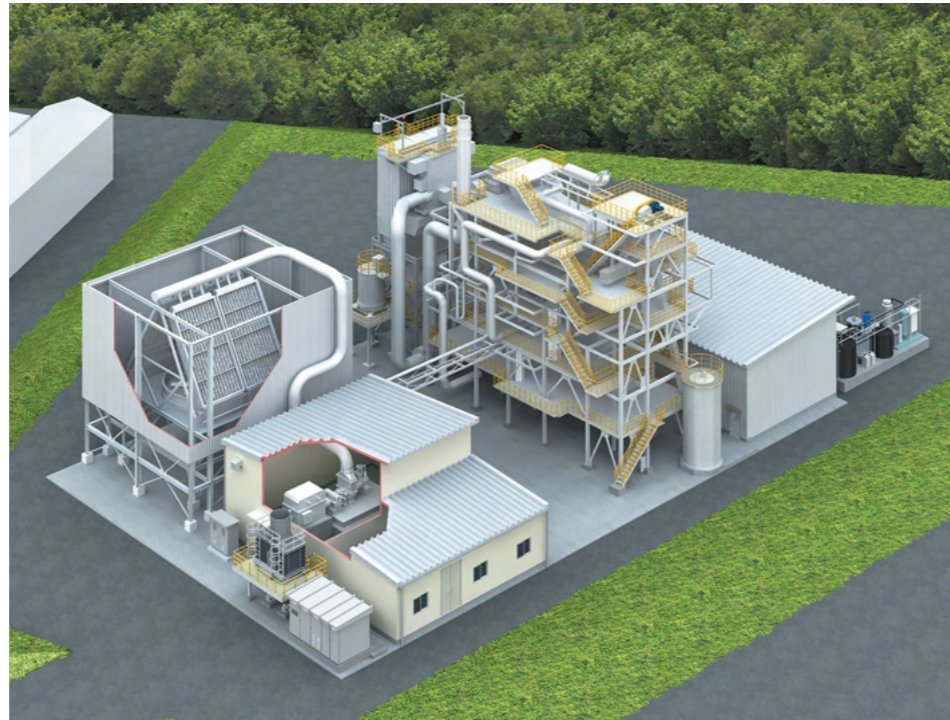


株式会社カミカグ

パワーエイド三重シン・バイオマス™松阪発電所が
2025年1月に運転開始予定

三重県松阪市に建設中の「パワーエイド三重シン・バイオマス™松阪発電所」が2025年1月に運転を開始する予定です。このプラントでは、三重県多気町にあるホクト株式会社の三重ぎのこセンターから排出される廃菌床(使用済み培地)とおもに中部圏から排出される木質系廃棄物およびプラスチック系資源を発電燃料とします。

発電された電力は、15年間にわたり燃料サプライヤーであるホクト株式会社へ供給される予定です。多気町の廃棄物処理業務の負担を低減しつつ、地域における資源・エネルギー循環経済の構築に貢献します。



設備名称	パワーエイド三重シン・バイオマス™松阪発電所
設置場所	三重県松阪市木の郷町24番地 ※ウッドピア松阪内
出資者	日本アジア投資株式会社、株式会社長谷工コーポレーション、株式会社BMエコモ、株式会社レクスポート、JA三井リース株式会社
発電規模	1990kW
年間想定発電量	約1647万kWh (想定送電量:約1515万kWh)
使用燃料	三重県多気町に所在するホクト株式会社三重ぎのこセンターから排出される廃菌床(使用済み培地)、中部圏の近隣から排出される木質系廃棄物およびRPF
運転開始	2025年(令和7年)1月予定



株式会社BMエコモ

所在地：東京都中央区明石町6-24
お問合せ：03-3542-9924
(受付時間:月～金/9:00～17:00)

BMecomomo特設サイトは
こちらのQRコードからチェック!▶

HP: <https://bmecomomo.com/>

サービス紹介動画はこちら



持続可能な社会実現に向けた、KPPグループのあくなき挑戦をご紹介

KPP Sustainable Times

限りある資源やエネルギーを循環・再生させることは、現代社会において極めて重要な課題となっています。当社グループは経営理念である「循環型社会の実現」に基づき、事業を通してサステナブルな社会づくりに貢献し、企業価値の向上を図っています。

持続可能な脱炭素社会の実現に向けて

BMエコモがグリーンエネルギー開発事業に参画

当社グループ企業である株式会社BMエコモが、完全NON-FIT型の脱炭素電源開発事業に参画いたしました。この事業は、製造業を主とする事業者から回収した生産過程で排出される生産副産物*1を主燃料として発電し、グリーン電力としてふたたび排出事業者へ売電することで、地域の資源・エネルギーの循環に貢献するものです。この「インターナルカーボンサーキュレーションシステム」と名付けられた新しい電力循環のしくみは、FIT制度*2に依存することなく、産業廃棄物の削減、事業者にとっては自社由来の脱炭素電源の確保につながるものです。

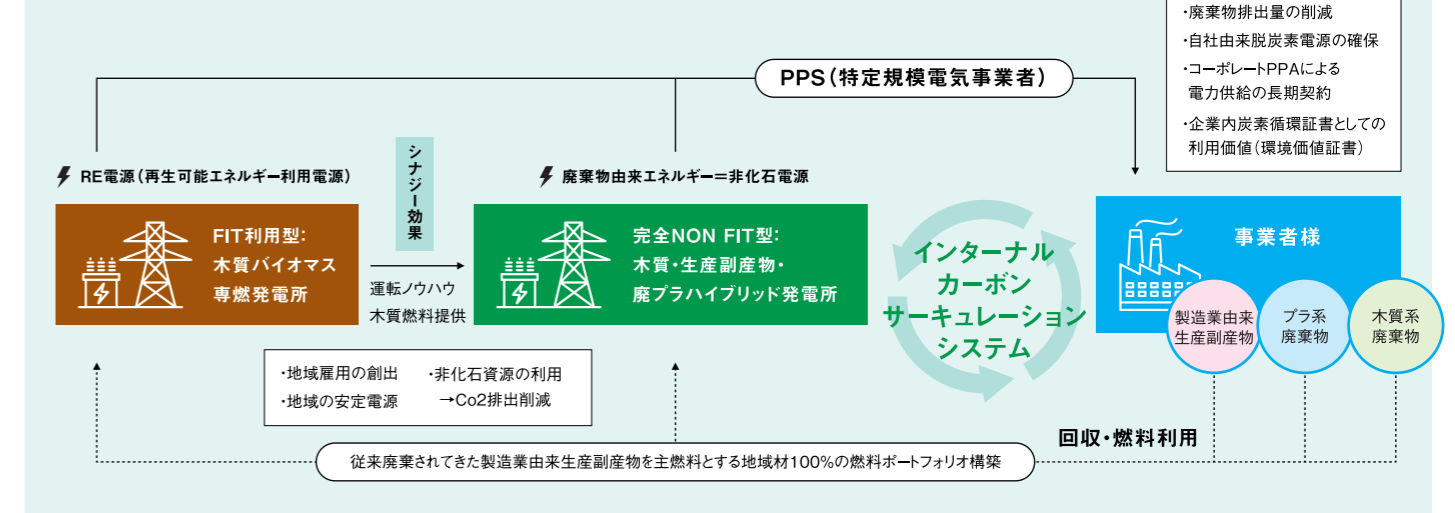
BMエコモは、すでに当社グループの既存顧客の各事業所から排出される木質系廃棄物や食品系(特に飲料類)の難処理バイオマスを燃料として調達しており*3、本事業では、年間数万トンのバイ

オマス燃料を供給する予定です。また、BMエコモが提供するプラント管理高度化IoTプラットフォーム「BMecomomo」を活用することで、プラントの耐用年数の底上げや管理ノウハウの次世代への承継を支援し、数十年にわたる持続的なベース電源の供給をめざします。

生産副産物をただ廃棄物とするのではなく、発電用の燃料として活用し、排出元へ必要な電力を還元する試みは、当社グループが掲げる総合循環型社会実現の理念に合致した取り組みです。今まで活用が困難だった食品系副産物などをバイオマス発電所用燃料として活用することでエネルギー自給率の向上を推進し、廃棄物の削減、サーキュラーエコノミーおよび脱炭素社会の実現に貢献していきます。

*1…主産物の製造過程から必然的に派生する物品のこと。
*2…再生可能エネルギーで発電した電気を、電力会社が一定価格で一定期間買い取ることを国が約束する「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」のこと。
*3…BMエコモは飲料系から発生する生産副産物はすでに燃焼試験まで完了しており、含水率60%超の高含水率の燃料においても、他の燃料とブレンドすることで問題なく使用可能であることを確認しています。また、発電所運転員のノウハウと「BMecomomo」を活用したデータ分析を組み合わせた独自のブレンドノウハウを蓄積しています。

■インターナルカーボンサーキュレーションシステムの概念図



「手紙」は語る

植村 鞆音

人間は表現する動物だというのが、手紙は人間の表現のなかでもっとも深く高貴なものだと思ふ。手紙は手書きがいい。眼光紙背に徹すれば、書き手の人となりが見えてくる。

第三十三回 中川 順

すなお

いまはもう知る人も少ないだろうが、中川 順はわたしが長い間勤めたテレビ東京の社長、会長のほか民放連会長を三期六年務め、昭和五十年から平成の初めまで約二十年間、飛ぶ鳥を落とす勢いで業界に君臨した。わたしは最初の頃疎まれ、晩年愛された。といつてもそれはわたしの一方的な思いこみでしかないが。最初の行き違いは、中川さんが社長に就任した直後の会社役員と組合幹部の初顔合わせの席でだった。後輩で代議員だった工藤卓男が会社のあり方を激しく糾弾し、中川さんが工藤をその場にいないわたしと取り違えたことに始まる。工藤とわたしがいくらか似たところがあったのかもしれない。その後間もなく、新社長宛に家族による葉書作戦という組合行動があり、わたしは二人の幼い息子の子の名で新社長に抗議の葉書を書かせた。

いまでもその内容は覚えている。二男の葉書には、「今年のゴールデンウィークにおとうさんはどこにも連れて行ってくれませんでした。聞くと、お給料が安いからだといつています。お父さんのお給料を上げてください」と書かせた。いくらか年上の長男に書かせた葉書。「カッターの菓の上でという映画を見ましたが、その内容があまりにおとうさんの会社に似ているので驚きました。はやく普通の会社になるようにしてください」

つ変化していった。

仕事をしているわたしのデスクまで足を運んで、「きみのことが出てるよ」と塩澤実信『雑誌記者 池島信平』を頂戴したことがある。元文藝春秋社長池島信平さんは五中(現小石川高校)での父の最初の教え子であり、小説家だった伯父直木三十五が社友に名を連ねた文藝春秋社の第一期の新入社員だった。文藝春秋が企画に参与したテレビ東京の『人に歴史あり』という番組の初回で芥川賞、直木賞を主宰する日本文学振興会の理事長でもある池島さんを主役に受賞者を総動員しようということになり、わたしが出演交渉の橋渡しをした。記事には、『人に歴史あり』が池島さん生前の唯一のテレビ出演であることが記されている。その記述を読んだ中川さんが『雑誌記者』をわたしに届けてくださったのである。日経記者時代年間二百十五本の三面トップ記事をスクープし、テレビ東京では減資して累積赤字を一掃、系列局を拡大した辣腕は、死後十年を経たいま、やはり評価に値すると思う。

自慢することではないが、もうひとつ思い出がある。『人に歴史あり』の広告主が日生劇場のホールで立食パーティーを開催した。瀬戸内海の肴を大阪から運ん

二通のうち長男に書かせた手紙は中川さんを激怒させたらしい。「カッターの菓の上で」はJ・ニルソン主演、精神神経科の病棟を舞台にした映画である。「きみは編成の幹部候補生だ。それなのに自分で自分の会社を精神病院にみたくたりするのか」と上司にこっぴどく小言をいわれた。たしかに、子どもが書いたものではない、親が書かせたと誰しもが思ったことだろう。

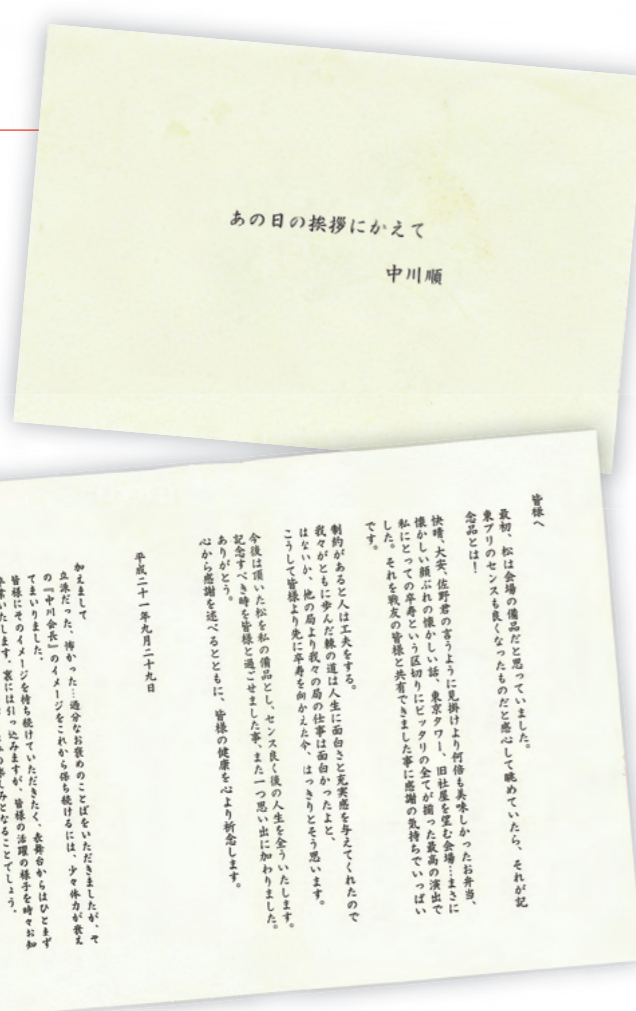
こんなこともあった。多分翌年の春のことである。わたしが人並みに課長に昇格した人事のあと、下級管理職の集まりがあった。中川さんから今回事の説明があつて、それぞれ昇格者は抱負を語れということになった。会場が局舎の最上階で日当たりもよく、ぼかぼかと温かい。なかなか順番が回つてこないで、ついうとうと居眠りをしていった。と、突然わたしの名前を呼ぶ声がある。「植村くん。きみの抱負が聞きたい」と社長。

わたしは、用意していたコメントをすっかり忘れこう応えた。「わたしは主任時代から課長のつもりで仕事をやってきました。課長に昇格したからといつてとくに変わるつもりもない。これまでどおりやっています」この回答が気に入ったのか、その頃から中川さんのわたしに対する態度が少しず

だ贅沢な宴だった。酒は青竹の筒に盛られた菊正宗。隣り合わせた中川さんから声がかかった。「きみは酒は何を飲んでいるんだ」中川さんが鎌倉文士の愛飲する岐阜の「三千盛」を好んでいることを人伝に聞いて知っていた私はすかさず、「三千盛もいいけど越乃寒梅を飲んでみます」と応えた。「越乃寒梅」は当時人気でなかなか手に入れるのが難しかった。「うーん。あれはなかなか手に入らんだろう」「いえ、簡単です。父が新潟で教師をやっていた関係でいくらでも手に入ります。なんなら明日にでも届けましょうか」

そして、この件で私は社長と簡単なディールをした。「その代わりボーナス査定はA(Aが最上)にしてください」「うん、わかった」翌日、私は家にあった越乃寒梅を二本社長室に届けた。その直後のわたしのボーナス査定がAだったのはいうまでもない。

現役をはずれてからの中川さんは寂しそうだった。ときどき夜の席に呼び出しがかかった。わたしは中川派と呼ばれる派閥とは縁がなかったが、退職された後の身内による米寿の祝には招んでいただいた。会場は東京プリンスホテルの広い二室。窓からテレビ東京の旧局舎を望むことが出来る。それは、いかにも、テレビ東京中興の祖と言われる中川さんに相応しい会場だった。手元に、その折の礼状がある。手書きではないが、簡にして要を得たい挨拶状だとわたしは思う。

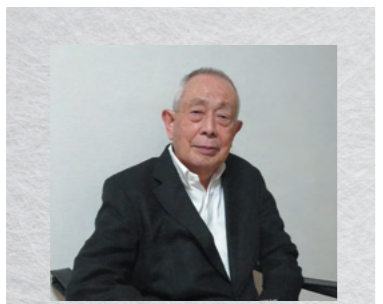


中川 順

実業家・新聞記者
1919-2010



1919年、広島県生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業後、1946年日本経済新聞社入社。新聞記者として大スクープを数多くものにし、経済部長、同局長などを経て1970年に常務。1975年に東京12チャンネル(現:テレビ東京)社長に就任し、同局をキー局とするネットワークを確立。1984年から民放連会長として放送新秩序の確立などにも尽力した。1980年に藍綬褒章、1989年に勲一等瑞宝章を受章。2010年5月、心不全のため死去。享年90歳。



著者略歴 植村 鞆音 エッセイスト

小説家・直木三十五の甥、東洋史学者・植村清二の子として愛媛県松山市に生まれる。1962年早稲田大学第一文学部史学卒業後、東映を経てテレビ東京に勤務。同局常務取締役(株)テレビ東京制作代表取締役社長等を歴任。2005年『直木三十五伝』で尾崎秀樹記念・大衆文学研究賞受賞、2007年『歴史の教師植村清二』で日本エッセイスト・クラブ賞受賞。主な著書に『夏の岬』『気骨の人 城山三郎』など。

ソリューション提案サービスサイト「SHIFT ON」に
「SHIFT ON paper」が追加

本誌50号にてご紹介したソリューション提案サービスサイト「SHIFT ON」に、新たな事業領域として「SHIFT ON paper」を追加いたしました。

「SHIFT ON paper」では、紙のトータルソリューションとしてFSC認証の紙製品や再生紙など環境に配慮した製品をはじめ、デザインから製造、加工、納品までの工程をワンストップで行えるトータルコーディネートサービスを提供します。また、使い終わった製品を回収してリサイクルするといった環境に配慮した最適なくみづくりもサポートいたします。

SHIFT ON paper

<https://shifton.kpp-gr.com/shifton/shifton-pa/>



■本サイトについてのお問合せ

国際紙パルプ商事株式会社 マーケティング室

TEL 03-3542-6851

MAIL kpp_marketing@kpp-gr.com

「SHIFT ON paper」ならではの3つのメリット

01.ニーズに応じた企画と紙の素材提案

紙を使用した情報媒体の作成時に、伝えたいことを抜き取り、見てほしい人に届けることは最大のミッションです。「SHIFT ON paper」では「誰に・なにを・どんなかたちで」を明確に、伝えるべきことをカタチにしていきます。もちろん紙の種類・素材選びもお任せください。機能性や値段などこだわりたいポイントを抑え、最適なメディアをご提案します。

02.デザインから製造、納品までトータルコーディネート

テーマに沿ったコンテンツアイデアを、最適な素材でカタチにします。お客様がご持のイメージから納得のいく製品と一緒に生み出せるのは、当社の持つ豊富な経験があるがゆえ。何社にもわたって制作を依頼する必要はありません。「SHIFT ON paper」ではデザインから納品まで、一連の業務をワンストップにてご提供いたします。

03.環境に配慮した最適なくみづくり

使用する素材の環境配慮はもちろん、「SHIFT ON paper」では使用後の廃棄処理まで責任を持って取り組んでいます。使い終わった製品を再度素材へリサイクルするしくみづくりは、限りある資源を大事にする姿勢であるとともに、自社で使用する資材の元となる素材を自社で賄うといった、循環型社会への貢献も担っています。

東京都内2会場にて
仙台七夕飾りを展示

当社グループ会社の鳴海屋紙商事が制作している仙台七夕飾りを、8月6日(日)まで展示しており、ミュージアムタワー京橋(～7/14まで)と銀座松竹スクエア(7/22～8/6)の2会場にてご覧いただけます。七夕飾りを制作している様子や当日の設営風景などの映像も放映していますので、併せてお楽しみください。

また、会場内に当社の循環型ビジネスモデルをご紹介するコーナーを設け、王子ファイバー(株)が製造・販売する紙糸「OJO+」を使った製品をはじめ、竹などの植物残渣を原料とする非プラスチック素材「modo-cell®(モドセル)」の食器、竹紙なども展示しています。ぜひこの機会に足をお運びください。



(写真右上) OJO+製のアパレル、modo-cell®の食器などを展示。(写真右下) OJO+製の人工芝が敷布された休憩スペース。
※写真はすべてミュージアムタワー京橋

INFORMATION

■ミュージアムタワー京橋

6月16日(金)～7月14日(金)
9:00～19:00 【土日休場】

※2会場とも観覧無料

■銀座松竹スクエア

7月22日(土)～8月6日(日)
8:00～21:00 【休館日なし】

OJO+コラボイベント「書家 金澤翔子展」をレポート



5月13日(土)～16日(火)の4日間にわたって、王子ファイバー株式会社と東武百貨店池袋店の共催による展示イベント「書家 金澤翔子展」心ゆさぶる筆と墨の芸術」が開催されました。金澤翔子さんは、5歳から母泰子さんを師として書道をはじめたダウン症の書家。その無心で揮毫する彼女の「書」は、京都の建仁寺で俵屋宗達が描いた国宝「風神雷神」の屏風に並んで書が納められるほか、海外での評価も高く、世界中の人々を魅了し続けています。金澤さんとOJO+の出会いは、遡ること5年前。王子ファイバーの白石社長(現・会長)が、鎌倉・建長寺で開催されていた展覧会で彼女の作品を鑑賞した際、その生命力あふれる書と言葉に感銘を受け、後日、母・泰子さんに直接コラボレーションを申し入れることに。お二人がOJO+の良さを理解し快諾してくれたことで、数々の企画が実現してきたそうです。今回のイベントでは、OJO+に書字した作品を多数展示。書道半紙と比べるOJO+には空洞があり、墨を吸う性質があるため、かすれた線をつくりやすいという利点があるそうです。また、強度があるため破れにくく、耐用年数が長いことも好評でした。

「OJO+」に関する
質問・お問合せ

王子ファイバー株式会社

東京都中央区銀座5-12-8
王子ホールディングス1号館7F

TEL:03-5550-3003
FAX:03-5550-0621

<https://www.ojifiber.co.jp>



半紙に書いた作品(左)は最後の一角まで墨が滲んでいるのに対し、OJO+で書いた作品(右)はカスレを出しやすく、文字から躍動感と立体感が伝わってくる。

会場では、金澤さんの作品やレプリカをはじめ、書があらわれたOJO+製の御朱印帳やがま口財布、ポーチなどのグッズも販売。OJO+とのコラボレーションイベントは、多くの方が来場し盛況のうちに終了しました。これからも用途の幅を広げ続けるOJO+の可能性に注目です。



Book House Cafe

東京都千代田区神田神保町2-5 北沢ビル1F
TEL:03-6261-6177(本/イベントの間合せ)
03-6910-0819(カフェ/バーの予約)
営業時間:[書店/カフェ]11:00~18:00
※カフェのラストオーダーは17:00
[バー]20:00~23:00(平日のみ)
定休日:年末年始
<https://bookhousecafe.jp/>



絵本と児童書に関する多様なカルチャーを発信する複合書店

多くの書店が軒を連ねる本の街、東京・神田神保町。ありとあらゆる本が集まるこの街で、絵本と児童書を専門に扱う新刊書店がこの「ブックハウスカフェ」です。子どもがお母さんを見つけやすい棚の高さ、ベビーカーが通れるようにゆったりと設計された店内は、絵本だけでも実に12,000以上のタイトルを取り揃え、母親に手を引かれた幼児から孫へのプレゼントを求めるシニアまで、幅広い年代の来店客で賑わっています。店内中央に備えられたソファブースでは食事やカフェメニューを楽しむことができるほか、1階・2階で3つのギャラリーが併設されており、絵本の原画展や作家によるトークショー、音楽ライブ

などの企画イベントが目白押しです。「書店ではあるんですけど、いろいろな方がくつろげる居場所であり、コミュニティを生み出す場所でありたいと思っています」。そう話すのは、同店を経営する社長の今本義子さん。2017年に家業である洋書専門店「北沢書店」のあるビル1階をリニューアルしてブックハウスカフェをオープン。絵本と児童書をテーマにしたあらゆる情報と人が集まるハブとして、作家と読者、絵本愛好家同士をつなげる橋渡し役を担っています。「それでも私たちの本分は、本を売ること。新刊本を売ること、作家さんや出版社、紙や印刷、製本といった紙文化の経済がまわるので、うちはどこま

でも本屋であることにこだわりたいと思っています」。

オンライン書店が隆盛するなか、一番の読者である子どもが実際に本を手に取り、その大きさや紙の手触りを確かめながらお気に入りの一冊を選ぶことができる。ブックハウスカフェは、複合的な要素を通して絵本の魅力を肌感覚で楽しめる書店です。



平日20時からブックバー「リリパット」がオープン。絵本の朗読を聞きながらお酒を楽しむ。



輸送マイルージとCO2排出を抑え、地球温暖化に配慮したライスインキを使用しています。



針金・糊・熱が不要な製本方法を採用し、リサイクルや怪我の危険へ配慮しています。



KPPグループホールディングス株式会社
KPP GROUP HOLDINGS CO., LTD.

発行:コーポレート・コミュニケーション室
〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号
TEL (03)3542-4166(代)
<https://www.kpp-gr.com/>